

**学校法人駒澤学園
駒沢女子短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

駒沢女子短期大学の概要

設置者	学校法人 駒澤学園
理事長名	長尾 通之
学長名	戸田 洋樹
A L O	下橋 淳子
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	東京都稲城市坂浜238番地

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養科		80
保育科		130
	合計	210

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

駒沢女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 6 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

昭和 2 年に曹洞宗大本山永平寺の記念事業として永平寺教学財団が創設され、以後、学校法人駒澤学園と改称して、女子教育を軸とした総合学園として発展してきている。短期大学の設立は昭和 40 年であり、現在は保育科と食物栄養科の 2 学科構成で、平成元年に東京都世田谷区より稲城市に学園全体とともに移転し、自然にも恵まれた環境のもとに禅の精神「正念」、「行学一如」に則った建学の精神を軸に教育研究が展開されている。経営も大学院（人文科学研究科）、四年制の女子大学（人文学部）、さらに中学校、高等学校と連結し、総合的な学園の中での女子短期大学として健全な経営状態にある。

現代的教育の理念として、「専門教育を通して自立した女性の教育」を掲げ、資格取得を目指す学生の熱意をサポートし、社会に貢献できる人材の養成を図っている。保育科（幼稚園教諭、保育士養成）、食物栄養科（栄養士養成）という現代のニーズに合致した学科編成で、専門的な知識と技術を教授し、社会において十分に通用する実践力の養成に努めている。

カリキュラム編成は両学科とも資格取得を目的としていることもあって、そこに重点を置いた編成となっている。また、単位数を考慮すれば、時間割編成もまたゆとりの少ないことも理解されるが、教養教育、人間教育のための科目をさらに増やすことが可能であれば、カリキュラムに一層の魅力が増すと考えられる。

教員の教育への意欲は、基礎学力を補うことや実務経験の不足を補うことを行うとともに、教員による自己評価票、授業評価の公開など、高い意欲をうかがうことができる。その反映として学生の授業評価も高い状態にあることがみられる。また、カリキュラムに編成されてはいないが、全学的に行われている「農業体験学習」などはユニークな教育計画である。研究活動も活発で研究の公表によるレベルの向上を図ることはもちろん、科学研究費補助金を毎年獲得するなど、外部資金活用も行っている。研究費の配分もよく考慮されている。

校舎、設備も優れて整っており、教育環境、研究環境も良好な状況にあるといえる。

学科の目的にかなった施設設備状況、図書、資料の充実、研究室などは特筆される。社会活動は稲城市の子育て支援事業など、地域社会に貢献している。

全体として恵まれた状況にあり、その総合力によって短期大学全体の活性化のためにも、短期大学の存在意義や魅力づくりについて、社会に訴える指標的な姿となることを期待したい。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神を学生に伝えるための「学燈会」が毎週実施されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 両科の学生全員による農業体験学習を通して、幅広く生命と深く関わり、命と向き合う職に就くという学生の自覚を促している。体験的農園経営が行われ、今の若者に希薄な作物の生育を直に感じる企画を実施している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学当初から、入学者全員の教育目標が達成できるように、免許・資格取得、就職等のガイダンスが実施され、就職総合センター、就職対策委員会、担任の連携による支援を行い、その結果、就職内定率、専門就職率が高い。
- 卒業時アンケートを実施して、満足度の低い項目については改善し、学生生活支援の満足度を高めるよう努めている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 稲城市の子育て支援事業や稲城市以外の近隣地域の教育・子育てへの支援など、幅広く地域社会へ貢献している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学則に謳われている学科を越えた全学的な女子短期大学としての教育目標を一層明確に表現し、かつ広く学生に知らせることを望む。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 資格取得のための指定教科が多く、困難を伴うとは思われるが、教養科目の内容をさらに検討し、当該短期大学の特色を出すよう推進されたい。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 中・長期計画にある「時代の要請に応えるユニークな短期大学」の理念を明確に

し、学科単位だけでなく、全学的な視点での組織的な取組みに期待したい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

曹洞宗の開祖道元の禅の精神、「正念」と「行学一如」の建学精神が確立されている。学生や教職員には、入学式や毎週月曜日の昼休みに開催されている「学燈会」（学長などによる講話）など種々の学内行事を通してこの精神が明確に示されている。基礎科目の仏教学（必修科目）でもこの精神が教授されていると思われる。

建学の精神を盛り込んだ専門教育理念が学科ごとに確立されている。すなわち、保育科では、その専門性に加えて「行学一如」の精神を教育目標に盛り込み、食物栄養科では、道元禅師の食の思想である「典座教訓」と「赴粥飯法」の精神に培われた食の専門家の養成に努めている。

教育理念についての点検も教授会のもとで自己点検・評価委員会を中心に実施されている。理事会や教授会の主導のもとに教育理念についての共通理解を図る施策も講じられており、学生への周知はクラスミーティング、科長の講話、通常の授業などを通して徹底されている。

しかし、学則にも謳われている学科を越えた全学的な教育目的・目標を入学案内のパンフレットによる学長メッセージ以外（学生便覧など）でも学生に十分に示されるとよい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

栄養士・保育士・幼稚園教諭と資格取得を前提にした学科であり、指定科目が多く、時間割編成に余裕の無い中で、建学の精神に基づき、学生の学力向上を目指した授業編成が行われている。それは建学の精神を盛り込んだ教養科目（仏教学）の設置および学生の主体性を高めるための専門科目の設置（保育総合ゼミ・食物栄養総合ゼミ）に現れている。なお、授業編成に困難を伴うが、教養科目数を増やすなど人間教育に

もう少し力点を置かれることを望む。

科会などで現状の分析をよく行い、基礎学力を補う工夫（基礎講座）や、実務経験不足を補う工夫（キャリアプランニング）など多様な要求に応えるべく、改革を主体的に行い、学生のレベルアップを図っている。

兼任講師の授業も含めた学生による授業評価や、教員による自己評価票の提出により、授業の向上を図り、授業評価の公開も実施している。また、活発なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を行っており、教員の授業改善への意欲がうかがえる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員は担任制・科会・11にのぼる委員会により、学生指導・学校運営について常に検討を加え、改革に取り組んでいる。教員数は短期大学設置基準より多い。やや高齢化しているが、その点は徐々に改善されつつある。教員の選考基準も明確に示され、規程に基づいて採用・昇任を行っている。

校地と校舎は、短期大学設置基準を充たし、教育に十分な広さをもっている。教室・実習室・研究室・図書館などすべての施設が余裕のある構造である。また、備品の面でも、視聴覚機器、パソコン、楽器、実験設備、実習設備、調理設備、図書館の蔵書数などあらゆる面で十分な数量をそろえており、学生がゆとりをもって学べる体制となっている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定は定期試験の成績、レポート、出席状況などから客観性をもつ総合評価が行われている科目が多い。担当教員は学生からの問い合わせに対し説明責任をもち、FDセミナーなどで、適正かつ厳密な単位認定方法の検討を続けている。

入学当初の多方面からのオリエンテーションや基礎科目の中に導入教育に関する科目が設定され、その結果、退学、休学、留年学生の割合は低く、資格取得率、専門就職率が高い。また、学生の教員への信頼度は高く、授業の総合的な満足度も高い。これらのことから教育目標の達成度と教育効果が高いと評価できる。

卒業生の専門就職先へアンケート調査、専門就職した卒業生へアンケート調査を実施し、それらの結果を在学生の指導に取入れ、より高い教育目標の達成度と教育の効果に努めている。

評価領域Ⅴ 学生支援

併設大学を含めて作成されている入学案内およびウェブサイトで建学の精神・教育理念・教育目標・望ましい学生像が明示されている。

入試センターで、広報入試事務の体制が整備され、受験生の問い合わせなどに対して適切に対応している。推薦入試、アドミッション・オフィス（AO）入試、一般入試が実施され、大学入試センター試験への参画予定があり、多様な入学選抜が、合否判

定教授会の審議により適正かつ厳正に行われている。食物栄養科では AO 入試合格者に基礎学力の添削指導を行うなど、入学前の学生支援を実施している。

入学後には、学長講話、教員・事務両面からのオリエンテーション、さらに担任による個別指導もなされ、スムーズに学生生活が始められる体制になっている。

就職総合センターを中心に、担任、就職対策委員の連携による進路支援が行われ、就職セミナー、就職オリエンテーションは入学後早い時期から始められ、高い就職率が得られている。

学習支援は、教科担当者が中心となり行われているが、進度の早い学生にも対応できる少人数のゼミが開講されている。

評価領域Ⅵ 研究

研究発表が担当授業科目を中心によく行われ、その成果が論文発表、学会発表など研究業績としてあらわれている。研究紀要は各地の大学、短期大学に配布するとともに、PDF 化し、インターネットで公開し、レベルの向上を図っている。平成 18 年度には共同研究や学内研究発表にも着手している。研究紀要の評価をさらに一層、高めるために、紀要論文の審査について外部者を加えるなど、レフリー制を先導的に試みられることなどを期待したい。

研究費は個人研究費、研究旅費、図書・備品・消耗品費、その他、きめ細かく配慮されている。その上、科学研究費補助金などの外部研究資金の申請も毎年行い、数件の採択をみている。

個人研究室は規模、設備ともに優れた条件で与えられ、その他、最新の機器、備品が整備されるなど、優れた研究環境にあるといえる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

稲城市との連携による公開講座を年 2 期に分けて、計画的に実施している。しかも、受講者へのアンケートによってニーズを把握し、次のプログラムへ反映させるなど、取組みに真剣さがうかがわれる。また、公開講座にとどまらず、稲城市の子育て支援事業への講師派遣、さらに、稲城市以外の近隣地域の教育や子育て支援も行うなど、広く地域社会に貢献する社会的活動を行っている。

学生の社会的活動としてのボランティア活動は実績が低いが、大学・短期大学合同ボランティア委員会の設置によって促進への意欲をみせている。

国際交流については韓国美術教育協会を通して同国の幼稚園教員を招き、平成 16 年度に行った幼児造形教育セミナーなどによる交流がユニークである。

全体として、社会的活動は優れた内容をもっていると評価される。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長、学長のリーダーシップのもとに、理事会・評議員会などの管理運営体制お

よび短期大学の運営体制については確立されており、大学全体として支障なく運営されている。できれば現在構想されている教学協議会を全学的な情報集約・整理機関として活用されるとよい。また、事務組織についても適正な規模を有し、関係諸規程に基づいて事務処理が行なわれており、学生へのアンケートを行い、業務改善へ取組むなどの努力もみられる。

人事管理については、就業規則および関係規程に基づいて適正に行なわれており、特に問題はない。

評価領域Ⅸ 財務

年度予算の決定過程・手続および執行については適正に行なわれており、日常的な出納業務も円滑に実施されている。また、財務情報も学園広報誌および学園ウェブサイトで公開されている。財務状況は健全であり、学校法人の資金は健全に維持され、教育研究経費比率は適切である。

短期大学に必要な施設設備は適切に整備され、かつ適切に管理されている。また、防災対策およびコンピューターのセキュリティ対策なども整備され、災害発生時の帰宅困難者への対応（宿泊先の確保、水・食料の備蓄）など、防災対策に積極的な取組みがみられる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価のための規程を整備し、それに則った活動が行われている。すなわち、自己点検・評価委員会などの組織を軸とした活動により、平成 15 年度から毎年度の報告書を作成するなど定期的な活動が行われている。

また、外部評価の実施に向けての規程整備などの準備も整えられている。

保育科や食物栄養科それぞれに実習体験のデータベース化による実習の充実、幼稚園教諭の一種免許状や管理栄養士免許の取得を可能にする教育の高度化、社会人ニーズの掘り起こしなどの将来計画が策定されており、改革・改善に意欲的である。